

会 議 の 概 要

1 会議名 (審議会名)	宝塚市社会福祉審議会 小委員会(令和7年度第2回)
2 開催日時	令和7年(2025年)12月22日(月) 16時00分～18時00分
3 開催場所	宝塚市役所 3階 3B・3C会議室
4 出席委員 (敬称略)	<参加者> 松岡克尚、志方龍、伊藤恵美子、今北さゆり、赤松弘治、梅田幸子、加藤めぐみ、大谷喜久、米田直人、木本大輔、塩見淳、
5 公開不可・一部不可の場合の理由	
6 傍聴者数	0人
7 公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可
8 議題及び結果の概要	<p>(1)開会</p> <p>(2)議事</p> <p>①計画策定スケジュールの一部変更について</p> <p>②アンケート調査の送付対象者について</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>・資料に関する説明</p> <p><b>【会長】</b></p> <p>①については、アンケート発送日および締切日をそれぞれ後ろへ変更するものである。②については、対象者一覧を作成し、資料記載のとおりであるとの報告があった。子どもと大人の割合は1対4であり、各障害種別ごとの人数も資料のとおりである。質問等があればこの場で承る。</p> <p><b>【委員】</b></p> <p>資料2にある障害者の区分(a～g)のうち、g「手帳なしでサービスを利用している人」の年齢別データについてお聞きしたい。0～10歳の該当者が148名と突出して多い理由を知りたい。</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>手帳なしで福祉サービスを利用している方の主な層は、障害者手帳を所持していないが、児童発達支援・放課後等デイサービス等の障害児通所支援を利用している子どもになる。これらのサービスは医師の意見書があれば手帳なしでも利用可能であるため、この層が多数を占める結果となった。</p> <p>一方、少数の大人については、精神障害や発達障害があるが手帳を所持してお</p>

らず、就労系等の福祉サービスを利用している者が該当すると考えられる。

抽出は「手帳を持たず福祉サービスを利用している人」という条件で無作為に行ったため、結果として子どもの層が多くなり、数値が偏ったものである。

**【会長】**

他に気になった点はないか。もしなければ、スケジュールの変更と送付対象者については了承をいただいたものとする。最後にまた気づいた点があればお聞きする。

次にアンケート調査案の修正について、前回皆さまから頂いたご意見を踏まえ、修正案をこのようにまとめたため、提案させていただきたい。本件について、事務局より説明をお願いする。

**③アンケート調査案の修正について**

**【事務局】**

・資料に関する説明

**【会長】**

資料 3 に示したように、事務局より9つの修正案の提示があった。これらの点について、さらに改善すべき点や意見があれば承いただきたい。また、この 9 点以外で気づいた点があれば、本日中にお知らせいただくとありがたい。本日中に内容を確定しないとスケジュールに支障が生じるため、協力をお願いしたい。

**【委員】**

私は特に意見はないが、1点確認したい。資料 6 障害者用の権利擁護の項目、2問 36 についてである。問 36 で「1. すでに活用している」を選択すると、紐づく問 36-1 で成年後見制度の満足度を回答することになるが、ここで「5. とても不満がある」を選択した場合、その理由については問 36-2 に進むという理解でよいか。実際に成年後見制度を利用している方について、不満の内容は問 36-1 で回答して終わりなのか、それとも問 36-2 で理由を記述する形になるのかを確認したい。

**【事務局】**

問 36 で「1. 現在活用している」と回答した場合は問 36-1 へ誘導され、そこで満足度を回答することになる。しかしその満足度について理由を尋ねる設問は次に続かない構造となっている。

**【委員】**

修正を求めているわけではなく、この問いの構造について確認したかったもので

ある。相談事業や後見制度の観点から見ると、「とても不満がある」という回答が多く出た場合、その不満の内容が例えば、後見人との相性の問題など、現在議論されている成年後見制度の見直しとも関係し、今後は後見人が固定され続ける仕組みではなくなる方向性も示されているところである。

そのため、「5. とても不満がある」と回答した場合に、どのような点に不満があるのかを把握できればと考えたが、本設問では不満があるという事実までを把握する項目であり、理由までは問わない構造であるとの説明を理解した。以上で結構である。

**【会長】**

成年後見制度を現在利用していて不満がある方について、その不満の内容も本来は把握してほしいというご要望であると受け止めたが、その理解でよいか。

**【委員】**

本日いただいた資料を改めて 1 項目ずつ確認したところ、この設問ではどのような回答の流れになるのか気になった点があった。しかし、不満があるという回答数を把握できれば十分であり、確認事項として申し上げたものである。修正を求める意図はない。

**【会長】**

理由までは求めているという認識で合っているか。

**【委員】**

問 36-2 の選択肢と紐づく形ではないという点についての確認だけであり、その点が確認できれば問題ない。

**【会長】**

委員が特に追加を求めないということであれば、この件はここで終了してよいと考える。ただし、もし理由も把握したいという意見が多ければ、項目として設けることも検討したい。これまでの議論では成年後見制度についてあまり取り上げられていなかったため、本日確認できたことは良かったと思う。

**【委員】**

新たに項目を設けようとする、非常に難しい問題があると思う。不満の原因は多様であり、特定の内容に特化した設問を作成することは容易ではないと思う。今回の修正事項以外にも意見があればとのご案内があったため、確認の意味で質問させていただいたものである。

**【会長】**

とりあえずご意見として承ったうえで、事務局とも調整し、可能であれば検討したいと考えるしかし1点確認したい。今回の設問は現に制度を利用している方を対象としているが、過去に利用していたが現在は利用していないというケースはあるのか。

**【委員】**

全くないとは言えないが、現在の制度では、判断能力が大きく回復した場合などに類型変更や「必要なし」とする申し立てにより終了となるケースはごくまれに存在する。しかし制度上、一度後見人がつくと変更や終了に至る事例は少ないのが実情である。統計的な数字は手元にないが、過去に利用して現在は利用していないというケースは多くはないと考える。

**【会長】**

過去に利用していた方を想定する必要は特にないという理解でよいか。

**【委員】**

今読んで感じたのは、に問32のAIに関する部分である。自分が読む分には理解できるが、使われている言葉が少し難しいのではないかと思った。例えば選択肢1などは、知的障害のある方にとって分かりにくい可能性があると感じた。

今から修正するとなると大変で、文章も長くなってしまうと思うが、回答しやすい言葉にできないか、少し検討してもよいのではないかと思う。今回新しく追加された項目であり、改めて難しいと感じたため、その点は考えた方がよいのではないかと感じた。

**【会長】**

全体的に文言が難しいのではないかというご指摘であると受け止めている。もし、他にもこの場で「ここが難しい」といった具体的な箇所をご指摘いただけるのであれば、お知らせいただきたい。

また、全体的に見直す中で、事務局と私の方でも難しい表現があれば修正が可能かどうか検討していきたいと考えている。

**【委員】**

障害者用の方について、問36-1の右下部分が「36ページ」と表記されており、ページ番号がループしてしまっているように見える。そこだけの指摘である。

**【事務局】**

22ページの問36-1を回答された方への右下の誘導が「問36」となっており、元

の質問に戻る形になってしまっている。

本来は問 36-1 に回答いただいた方は、次の問 37 へ移動する流れであるため、そちらに誘導するよう修正する。

**【委員】**

資料 6 の障害者用について、まず問18の選択肢、「9. 生徒が地域とのつながりを持てる機会を設ける」という項目で、最初数字の0が付いているが、これは単なる誤記なのかどうか確認したい。同じように、もう一か所「0」が入っている箇所がある。

また問 38-1 の文章、「ひとりで生活することに不安に…」という部分について、「不安に」ではなく「不安を」ではないかと感じた。助詞としてどちらが適切なのかを確認したい。

**【事務局】**

まず1点目について、ご指摘のとおりである。問 18 の選択肢 9 の「生徒側」の前に「0」が付いてしまっているのは、意味のない数字が誤って入力されたものであり、単純なミスであるため、修正する。

また、同様のご指摘として、24 ページの問 38-1 の選択肢 3 の箇所についても確認した。確かに「将来ひとりで生活することに不安に感じている」と、助詞の「に」が続いており、文章として不自然な部分があるため、より自然で分かりやすい表現に修正したいと考えている。

内容を詰める際に乱丁が発生しているため、発送及び印刷前には全体的に見直しをかける。

**【委員】**

修正点の確認である。障害者用アンケート問 26-1 について、最後の「22」「23」は、本来「18」「19」に修正すべきではないかと考えている。前の番号が 17 であるにもかかわらず、急に 22 になっており、番号が飛んでしまっているように見えるため、その点を確認したい。

次に、障害者用の AI に関する質問である。問31-2の中の 1~7 までの選択肢が並んでいるが、「7」が二つ続いており、本来は「8」ではないかと思う。細かい点ではあるが、番号の整理について全体的に確認をお願いしたい。

また、先ほど出てきた AI に関する質問項目について、選択肢の言葉がやや難しい印象がある。障害者の立場に立って、より平易で分かりやすい表現に修正していただくとありがたい。時間的なこともあるため、表現の調整については事務局に一任したいが、できる限り平易な言葉への修正をお願いしたい。

**【会長】**

今回ご指摘いただいたように、言葉遣いが難しい箇所については、全体的に見直しができればと考えている。もし「この表現は分かりにくい」「別の言いの方がよい」といった具体的な箇所があれば、ご指摘いただくと助かる。

また、細かい誤字や表記ゆれ、番号のずれなどについては、こちらで確認のうえ修正したいと考えている。

**【委員】**

資料 6 障害者用の問 11—3 について、年齢区分を 10 歳刻みにしていただいたことで、70 歳以上が「70 代・80 代・90 歳以上」と分かれ、アンケート結果としてもより分かりやすくなるのではないかと考えている。

続いて、少し重い内容になるが、2 点確認したいことがある。

1 つ目は、障害者用の問 39 についてである。自宅など地域で生活する際に必要な条件を尋ねる設問の中で、7 番目に「経済的な負担の軽減」という項目がある。

この設問は、さまざまな制度をどれだけ知っていて、利用されているかを把握することだと理解している。経済的な不安については、これまで十分に意見として伝えられていなかったと反省している。

以前、福祉金が廃止された際に、本人や世帯の年収を尋ねるアンケートを見たことがあるが、年収を直接聞くのは個人的すぎて難しいと感じたため、今回は意見として挙げなかった。

物価高など大変な状況がある中で、「経済的な不安があるかどうか」「今はないが将来は不安を感じるか」など、負担感や不安の有無を尋ねる設問が必要ではないかと考えている。この点について、皆さんのご意見を伺いたい。

2 つ目は障害者用の問 23、働くことに関する設問で、「仕事はしたくない」「仕事ができない」という文言が使われている箇所についてである。

もちろん、仕事をしたくないという方もおられるとは思いますが、特に精神障害のある方の場合、働きたい気持ちはあっても、しんどさや体調の不安定さから、結果として働けないというケースの方が多いのではないかと感じている。そのため、「仕事はしたくない」という表現に少し引っかかりを覚えた。「仕事ができない」という表現は状況を適切に表していると思うが、「仕事はしたくない」という言い方が、引っかかる。私だけの感覚なのかどうか分からないため、皆さんのご意見も伺いたい。

**【会長】**

まず年齢区分についてである。従来どおり 10 歳刻みで区切る方法を基本としてきたが、前回の議論では、後期高齢者が 75 歳以上であること、介護保険の利用開始が 65 歳からであること、また一般的には 60 歳で定年を迎える方が多いことなどを踏まえ、別の区切り方もあるのではないかとこの意見があったと記憶している。ただ、最も分かりやすいのは、やはり 10 歳刻みで区切る方法であると思う。その場

合、定年や介護保険、高齢者の状況などを細かく反映することは難しいが、それではよろしければ、このままの区分で進めたいと考えている。今の区分で問題ないということであれば、この案で確定したい。

【会長】

次に確認したい点が2点あるとのことだが。

【委員】

いくつか「経済的な負担の軽減」という言葉が出てくる。

【会長】

問39のことか。経済的な負担を和らげてほしい、という点についてであるが、これは具体的には家賃補助などの支援を想定しているという理解でよいと思う。

【委員】

この項目そのものが悪いということではなく、「経済的な負担の軽減」という項目があるのであれば、同じように“経済的な不安”そのものを尋ねる設問があってもよいのではないかと、という趣旨で申し上げたかった。

問39は「経済的な負担の軽減」という項目が載っているため例として挙げたまでである。新しく設問を作る必要があるかもしれない、今からでは難しいかもしれないが、経済的な不安を把握する項目があるとよいのではないかと思い、意見として申し上げた。

【会長】

選択肢の中で「経済的な負担」だけでなく、「経済的な不安」についても示せるようにしたいということか。

【委員】

障害者はさまざまな事情から収入が少なく、生活が困窮している実態をもっと分かかってほしいという点であり、その状況をアンケートで把握できるようにしてほしいという趣旨だと理解している。例えば精神障害のある方は働きたくても働けず収入が少ない場合が多く、知的障害のある方も事業所で働くとな収が低くなり、結果として困窮している実態がある。

年収そのものを尋ねるのは難しいが、こうした経済的困難をアンケートでより明確に示せる項目が必要ではないか、という意見であると受け止めている。

【会長】

つまり、問39 そのものの是非ではなく、全体として障害者の方がどの程度経済

的に困難な状況にあるのかを、アンケートのデータとして把握したいという趣旨であると理解した。

**【事務局】**

経済的な課題へのアプローチについては、今回のアンケートでは一つの单元として独立した設問は設けていないが、選択肢として経済面に触れている項目が三か所存在している。

1つ目は、大項目 9「サービスの利用について」の間 26 であり、選択肢「14. 経済的負担が大きい」を設けている。

2つ目は、大項目 12「今後の暮らしについて」の間 39 の選択肢「7. 経済的な負担の軽減」を設けている。

3つ目は、大項目 15「福祉全般について」の間 53 の選択肢「8. 家族の介助負担が少なく、経済的な不安もあまりない」を設けている。

さらに今回のアンケートでは、前回までの「当てはまるものをいくつまで」という制限をなくし、該当する項目をすべて選択できる方式に変更している。そのため、これまで他の項目を優先して選ばれなかった経済面の項目についても、該当する方がより選択しやすくなると考えている。

今後、回答結果を分析する際には、経済的な不安や負担に関する選択状況にも着目し、必要に応じて皆様に情報を還元できるようにしたいと考えている。

**【会長】**

事務局では、あえて年収を聞かないという方針で進めていくということで合っているか。

**【事務局】**

今回は設けない方針で進めていく。

**【会長】**

一般的に、年収などプライベートに深く関わる質問を設問に含めると、回収率が下がる可能性が高いと考える。また、自身の収入を正確に記入するかどうかは回答者によってばらつきがあり、必ずしも信頼できるデータが得られるとは限らない。

むしろ、宝塚市民の平均収入などは、外部機関が保有する統計データ等で把握できる可能性があるのではないかと考える。アンケートで無理に尋ねなくても、別の方法で必要な情報を補えるのであれば、それを活用すればよいと考える。

その意味では、今回の調査に年収項目を盛り込んで回収率を下げる必要はないのではないかと考えた。

**【事務局】**

サービス利用者については、毎年県へ報告しているデータがあるため、平均賃金などの情報は把握できると考える。また、障害者雇用に関するデータや、障害分野以外の就労部署が把握している可能性がある。そのため、これらのデータについても確認していく必要があると考えている。

**【会長】**

サービス利用者については、生活保護の受給状況や住民税の免除の有無といった情報について、一定の割合や傾向はデータとして把握できるという理解でよいのか。

**【事務局】**

基本的には、どれくらい働いて収入を得ているかというデータが中心になると考えている。そのため、全国平均と比較して宝塚市の状況がどうかといった点は把握できると思われる。一方で、生活保護の受給状況など、より細かな情報については把握が難しいと考えている。

**【事務局】**

補足をすると、障害福祉サービスを利用している市民の収入区分については、利用料の負担上限額を決定する際の情報から大まかな把握が可能である。具体的には、自己負担上限額が0円の非課税・生活保護世帯、9,300円となる一般的な住民税課税世帯、そして3万7,200円となる高所得層の大きく三つの区分で確認できる。

このように福祉サービス利用者に限れば、アンケートで収入を尋ねなくても、一定の収入傾向を把握することは可能である。一方で、障害者手帳のみを所持し、福祉サービスを利用していない方については、調査権限も機会もないため、収入状況を把握することは難しい。

**【委員】**

アンケートで個々の収入額を把握しないことは理解したが、宝塚市としては、先ほど説明のあったとおり、福祉サービス利用者については一定の収入区分を把握できるデータがあるという理解で合っているか。

報告書を作成する際には、アンケート結果だけではなく、障害者関係の収入データなど、他の既存資料も活用し、実態を踏まえた形で報告してほしい。アンケート項目と実態データの双方をうまく組み合わせ、全体としてバランスの取れた分析・報告となるよう調整していく考え方が必要であると考えている。

**【会長】**

つまり、今回のアンケート以外に障害者の収入等を把握できるデータがあるのであれば、それらも併用して報告書に反映し、計画策定の際に盛り込んでいくべきではないか、という趣旨の意見であるということか。

**【委員】**

それで合っている。

**【事務局】**

既存データを活用して状況を示す方法も一つであると考える一方で、先ほど説明したとおり、障害福祉サービス利用者については所得状況の確認について同意を得ているため、一定の把握は可能である。しかし、障害者手帳所持者全体については、同意なく所得等を調べることはできないため、全体像を資料として提供することは現段階では難しいと考えている。

**【会長】**

今回の調査では、回答者がデータ活用に同意したうえで回答しているが、他課が別の方法で収集したデータを報告書に用いる場合には、当然ながらそのデータ提供者の同意が必要となる。したがって、同意なく他のデータを調べて利用することは調査倫理上問題があり、実施は難しいという趣旨である。

そうなるこのアンケート調査で収入などの詳細を直接尋ねざるを得ないが、そうすると回収率の低下につながってしまう。

したがって経済的な負担に関する選択肢を活用した分析で補完し、一定の傾向を把握する方法が適切ではないかと思う。

**【委員】**

最終確認として、障害福祉サービスを利用している方に関する既存データについては示すことは可能であるという理解でよいのか。

**【事務局】**

現在、障害福祉サービスを利用している方については、既存データにより一定の収入区分を把握できている。しかし、今回のアンケート結果とそれらのデータを直接紐付けて資料化することが適切かどうかについては、疑問が残るところである。

先ほど説明したとおり、アンケート内には経済的な不安に関する選択肢が複数設けられているため、これらをクロス集計することで、経済的な不安を感じている人の割合や、どの設問でそうした傾向が見られるかを示すことは可能である。

そのため、アンケートの集計方法を工夫し、経済面の傾向が分かる形で皆様に示すことが適切ではないかと考えている。

**【会長】**

私が申し上げていたのは、既に分析済みのデータが存在し、それを二次的に活用できるのであれば利用したいという趣旨であった。しかし、現状ではそのようなデータは存在しないということで理解した。そうであれば、同意なくデータを活用することは倫理的に問題があり、実施は難しいという点については了承いただきたい。

**【会長】**

もう 1 点として、「仕事をしたくない・できない」という設問のうち、「したくない」という選択肢が現実的にあり得るのかを確認する趣旨であると理解している。障害のある方の中には、障害特性などから「仕事が難しい」と判断される方がいる一方で、「仕事をしたくない」と考える方が実際にどの程度存在するのかについて確認したい。

**【委員】**

仕事を「したくない」と明言される方は実際に存在する。ただし、その背景には、周囲からどの程度働くことへの支援やアプローチが行われているかといった要因も影響していると考えられる。いずれにしても、「したくない」という意見を示す方は一定数おられるという認識である。

**【会長】**

その方へのアプローチやサポートの方法はいくつも考えられるが、実際に「仕事をしたくない」と考える方が一定数存在するという点を踏まえると、設問項目として残しておくことには意味があるのではないかと考えている。

**【委員】**

「仕事をしたくない」と「仕事ができない」は全く異なる概念であり、同じ文言として並列に扱うのは適切ではないと思う。障害の有無にかかわらず、世の中には「仕事はしたくないが、収入のために働く」という考え方の人も多く存在する一方で、「仕事はしたいが障害等によりできない」という状況の方もおり、両者は明確に区別して捉える必要がある。

そのため、アンケート項目においても、「したくない」と「できない」を分け、理由を尋ねる設問も分けるなどした方が望ましい。特に、「やりたいのにできない」背景には様々な要因がある。

理由を細かく分類することは難しい面もあるが、少なくとも「したくない」と「できない」を区別して考える工夫が必要であるという提案である。

**【会長】**

つまり、資料 6 の 11 ページにある該当設問について、「仕事をしたくない」と「仕

事ができない」を同一の選択肢に含めるのではなく、「2.仕事はしたくない」、「3.仕事はできない」といった形で、選択肢を分けて設定してはどうかという提案である。また、もし両者が回答後に遷移する設問(飛び先)は共通でも構わないが、選択肢そのものは区別しておく方が適切ではないかと思う。

**【委員】**

障害のある方に対して「仕事をしたいか、したくないか」を尋ねると、「したくない」と答える方も一定数いる。しかし、その一方で、自分で働いて得たお金で外食を楽しむなど、生活の中での楽しみがあるために「働きたい」と考える方もいる。

**【会長】**

働きたい理由には、収入を得たいということだけでなく、社会に貢献したい、自己の役割を見出したいなど、さまざまな動機がある。一方で、障害のある方に尋ねると、「仕事をしたくない」と答える方も一定数いるということか。

**【委員】**

中には体力的にしんどい仕事もあるので、そういう意味では「したくない」と思う人もいる。ただ仕事をしないと収入が得られないうえ、余暇を楽しむなど、やりたいことにはお金がかかることも理解しているので、「働きます」と言うケースもある。

**【委員】**

「8. 仕事に関する今後の希望」について、意思を聞いているのか、現状を聞いているのかが分かりにくいと感じた。タイトルに「希望」と入れているのであれば、「働きたい」「働きたくない」といった希望が出てくると思う。一方で、実態を把握するのであれば、「働いている」「働いていない」で1番、2番と分けて、そこから追いかけていく形になるはずである。

直接議論されている「したくない」「できない」は意味が異なるという点も踏まえると、どちらを聞きたいのかが曖昧になっていることが疑問として出ているのだと思う。そのため、この設問では希望を取るのか、実態を把握するのかをまず明確にした方がよいと感じた。

**【会長】**

重要な指摘だったと思う。「できる・できない」という現状と、「したい・したくない」という意思が混ざってしまっているため、この部分は一度整理して、場合によっては選択肢を削除した方がよいかもしれない。

**【事務局】**

複数ご意見をいただいたところで、「したくない」「働いていない」という希望と、「したいけれどできない」という状況は分けて聞いた方がよいと考えている。そのため、問 23 の「仕事をしたくない・できない」を細分化し、「2. 仕事をしたくない」と「3. したいけどできない」のように分ける方向で整理したい。

またアンケートの趣旨としては単元にもあるように「希望」を聞くものであるため、実態ではなく本人の意向として「したい」「したくない」「したいけどできない」という選択肢に分ける形が適切だと考えている。

一方で、誘導先については、現在「したくない・できない」を選んだ場合は 13 ページの間 23-5 へ進む形になっている。今回選択肢を 2 つに分けたとしても、発送までの時間が限られており新たな誘導設定が難しいため、2 を選んだ場合も、新設する 3 を選んだ場合も、同じ問 23-5 へ誘導する形にしたい。

そのうえで、もし両者に違いがある場合は、問 23-11 の「その他」で記述していただくことで拾えると考えている。以上の案で進めたいと考えている。

**【会長】**

ここは「仕事をしたくない」と「仕事ができない」を分けて考えるということか。別の選択肢として設けるのは重要で、妥当だと思う。

そして、誘導先(飛び先)は同じところにまとめて考えるということでしょうか。他に何か意見はあるか。

**【委員】**

このアンケートを書いた時に、少し迷ったところがある。「主な外出の目的はなんですか」という設問について、当会ではよく「余暇活動」という言葉を用いるが、スポーツ活動と文化芸術活動の区分が分かりにくいと感じた。例えば、ダンスをしている場合はスポーツ活動になるのか、そのあたりをどう書けばよいのか迷う。

また、自閉症の方はドライブが好きだという話をよく聞く。土日になると保護者の方がドライブに連れて行くというケースも多いが、これは「その他」に入るのかと思った。

この設問でどこまでの内容を把握しようとしているのか、アンケートの趣旨によってはこのままでも問題ないと思うが、その点が気になった。

**【委員】**

次に資料7、障碍児用の問 36 の「医療を受ける上で困っていることはありますか」という項目についてである。

医療を受けることとは少し違うが、特児などの手続きの際に診断書を書いてもらえない、診断書を書いてくれる医師が見つからないといった困りごともある。これは設問の趣旨とは少し違うのかとも思うが、もし可能であれば、こうした内容も入れて

ほしいと感じている。

以上の2点について気になった。

**【会長】**

資料6障害者用の問14-1、外出の目的について、スポーツ活動と文化芸術活動の選択肢は分かれているが、どちらに分類すればよいか分からない活動もあるのでないかという点があった。また、散歩やドライブといった目的も選択肢に盛り込んでどうかという意見だったと理解している。

もう1つは障害児用の問36についてで、これは実際診断書を書いてくれる医師がいない、あるいは非常に少ないという状況があるのか。

**【委員】**

以前学齢の会員さんで、特児の診断書を書いてもらうために精神科などいろいろ当たったという話を聞いた。最終的には精神科の管轄ではなかったという話があったが、精神科の先生に診断書を書いてほしいとお願いしたところ、20件ほど断られたとのことだった。大人になると診断書を出す機会はそれほど多くなく、区分はここから出せるので、いつもの医療機関で対応してもらえるが、学齢の方は特児などで診断書を提出する機会が多く、期限も決まっているため、診断書を用意するのに苦労されているという話をよく聞く。

こうした状況がどれくらいあるのか、アンケートで把握していただけるとありがたいと思い、提案させていただいた。

**【会長】**

発達障碍の方については、特に診断書の作成に時間がかかり、診断書をもらえないという状況がある。そうした場合にどう対応しているのかと思ったが、現状の設問ではそれをカバーできる選択肢がないということになる。

「その他」に入れる形にはなるが、別の選択肢として設けてもよいのではないか、という話だったと理解している。事務局はどうか。

**【事務局】**

まず1点目、資料7障害児用問14-1の外出の選択肢についてである。

この設問は「休日の日中外出」について聞いているため、基本的には余暇を想定した選択肢になっている。ただし、全員が余暇目的とは限らず、家族介護などで外出される方もいるため、決めつけることはできないが、概ね余暇を前提として設定している。

余暇をどこまで細分化するかという点で、文化芸術活動はやや分かりにくい部分もあるが、その範囲に当てはまると考えて付けている。迷われる場合には「その他」を設けているので、そこに誘導していただき、より細かい内容はそこで確認できれば

と考えている。

もう1つ、資料7障害児用問36の「医療を受ける上で困っている点」についてである。

ご指摘のとおり、診断書の取得に困るという声は障害福祉課でもよく聞いているため、選択肢の1つとして追加することは可能だと考えている。実際に入れる場合は、文言をどうするかをこの場で決めたいと思っている。「必要な診断書の取得がしにくい」といった表現になるのではないかと考えているが、いかがか。

【会長】

2つ目の指摘について、どういう文言が良いかを教えてもらうことは可能か。

【委員】

「診断書の取得に時間がかかる」といった書き方でよいと思う。「たくさん断られる」と書くのは少し適切ではないと感じるので、「取得に相当の時間がかかる」といった表現にしておけばよいのではないかと考える。

【事務局】

その文言で進めていく。確かに、ご指摘いただいているケースは、発達障碍の方でこれまであまり病院にかかってこなかった方が、必要に迫られて初めて診断書を求めた際に、診断自体を受けていなかったために診断書を書いてもらえない、という背景が多いということだと理解している。

【委員】

それで問題ない。

【事務局】

それであれば、「診断書の取得に時間がかかる」という文言で、選択肢を1つ追加させていただこうと思う。

【会長】

1つ目の問14-1の選択肢について、「散歩」や「ドライブ」を付け加えるのは難しいか。

【事務局】

あれもこれもと入れてしまうと項目が増えすぎる懸念があり、そこだけを切り取って設けるのも難しいと感じている。そのため、今回は選択肢としては入れず、「その他」でどれくらい挙がるかを見たいうえで、件数が多いようであれば次回に1つの項目として細分化する方向でもよいのではないかと考えている。

【会長】

それで構わないか。

【委員】

今後の福祉計画を策定するうえで、外出先がどこかという点は特に大きな影響はないのではないかと感じているので、このままの選択肢で問題ないと思う。ドライブのように少し違うと感じる場合は「その他」に記入されるだろうし、それで十分対応できると考える。

【会長】

問14-1の選択肢はこのままでいくことにする。この質問は、引きこもりの問題や居場所の問題にも関係してくる設問であり、かなり重要だと考えている。障害のある方がどれだけ外出しているのか、その頻度と目的を把握することは大切な項目だと思う。

自分でキャンプやドライブに行くような場合は、本人が主体的にできる活動である。また買い物に行く場合でも、スーパーがその人にとっての居場所になっている可能性があるし、ゲームセンターが居場所になっているケースもある。長期的には、こうした場が新たな「居場所」になっていく可能性もあるため、重要な設問だと感じている。

とりあえず今回はこのままの形でいきたい。今後、「その他」に該当する回答が多いようであれば、次回のアンケートで項目を追加する方向で検討すればよいと思う。他に何か意見はあるか。

【委員】

資料6の問53について確認したいことがある。「当てはまるものをすべてに○」と記載されているため、私がこのアンケートを受け取った場合は、当てはまるものにはすべて丸を付けると思う。それでも問題はないか。

【委員】

また同じく問53の選択肢、「4. 必要な情報がすぐに入手できる」というのは意味として、手話や要約筆記といった方法も含まれるのだろうと想像できる。しかし読んだ人が「手話でも筆談でも情報が入る」という意味で受け取るかどうかは、この書き方だけでは分からないかもしれないと感じている。

そのため、例えば「音声言語以外の方法で必要な情報を得られる、把握できる、コミュニケーションができる」といった、もう少し具体的な書き方があればよいのではないかと思う。

**【会長】**

問 53 以外も同様に、これまでは「重要なものを 3 つだけ選ぶ」という方式を採用していた。しかし今回は、「当てはまるものをすべて選んでください」という形に変更している。

この点については、事務局および今回調査に協力いただいているグループとも協議し、大きな差は生じないだろうという判断で今回の方式としたものである。

場合によっては、すべての項目に丸を付ける方も当然いらっしゃるかもしれないが、それはそれで仕方がないことであると考えている。事務局としても、この対応で問題ないという認識である。

**【事務局】**

今回、全体的に数を限定することはせず、質問については当てはまるものすべてに丸を付ける方式としたので、その結果がどう出るのかを見たいと考えている。指摘にあった通り、すべて必要であると感じる方はすべてに丸を付けるだろうし、設問の中に「特に」と記載しているため、必要だと思いつつも特に重要なものを限定して回答される方は、そのような答え方になると想定している。

一旦はこの方式で実施し、もし多くの方がほとんどすべてに丸を付けてしまい、集計として意味を成さないような結果になる場合には、改めて見直しを検討したいと考えている。

今回は「特に」と付けている項目もあるため、すべてに丸を付ける方もいれば、絞って回答される方もいるだろうという見込みで、この方法でやってみてはどうかと思っている。

**【会長】**

しかし気になったのは問 53 について、一般論として答えるのか、自分にとってどうかで答えるのかによって、当然ながら回答が変わってくると考えている。

一般論であれば、ほとんどの人がすべてに丸を付けると思われるが、自分にとってどうかという観点であれば、選択が絞られる可能性がある。しかし、現状の問いの書き方では、一般論を聞いているのか、個人にとっての重要度を聞いているのかが曖昧であり、その点で混乱が生じ、回答の信頼性が低くなる可能性があると感じている。

**【会長】**

もう 1 点、問 53 の選択肢 4 についてである。

「必要な情報がすぐに入手できる」という項目はアクセシビリティの話だと理解していたが、よく考えると、先ほどの「情報入手の手段」の問題がここには含まれていない。一般の人にとっても、情報がすぐ入手できることは望ましいことであるが、視覚障害や聴覚障害などがある場合には、適切な媒体や手段が補われなければ情報

が入手できないという点が、この選択肢 4 では明確になっていない。

そのため、この点は分けて考えた方がよいと考える。この点については改めて検討することとしたい。ご指摘を踏まえ、修正の方向で事務局にて検討を進めたいので、引き続きご一任いただければありがたいと考えている。

その他に何か意見はあるか。

**【委員】**

資料 6 の問41の支え合い活動について確認したい。

「支え合い」という言葉が、回答者全員にとって分かりやすいのかどうか気になっている。このアンケートは障害者用であるため、障害のある方であれば「支え合い活動」という言葉からある程度イメージできるのかもしれないが、念のため確認したかった。

大丈夫であれば問題ないが、私はこの言葉に少し引っかかりを感じたため、皆さんがどのように受け取るのか気になっているところである。

**【会長】**

問41について「支え合い」という表現としてこれでよいのか、あるいは別の字や言い回しの方が適切なのか、確認が必要ではないかという意見と認識している。

**【事務局】**

前回も同様に「支え合い活動」という言葉を用いて実施していた。

障害福祉サービスや他地域との連携といった限定的な意味ではなく、もう少し広い概念を示す言葉として何か適切な表現がないかということで、「支え合い活動」という語を引用して用いている、というだけのことである。

そのため、例えば「支え合い」という言葉をあえて外し、「どのような活動があってほしいと思うか」といった、よりシンプルな書き方にすることも可能ではないかと考えている。

**【会長】**

恐らくこれは住民同士の支え合いを指している話なのだと思う。つまり、地域の方がこういうことをしてくれたら助かる、という内容を聞いているのではないかと考えている。

専門的な福祉サービスの提供というよりも、地域の方が、例えばゴミ出しを手伝ってくれるとか、電球交換をしてくれるといった、日常的な支援があると助かるという趣旨であると理解している。そのため、「支え合い活動」という言葉が分かりにくいのであれば、「地域の人たちからこうした支援があればよいと思うこと」といった書き方の方が適切なのではないかと感じている。

**【事務局】**

問 40 では「地域活動」という言葉を用いていることもあり、問 40 と問 41 を文字だけで捉えると、やや同じような内容に見えてしまうのではないかと感じている。そのため、問 41 については、もし差し支えなければ、前回と同様に「支え合い」という言葉を再度用いる形でもよいのではないかと考えている。

**【委員】**

問40について、「地域活動」という言葉が用いられており、問 41 と似たような問いかけになっているようにも見える。しかし、問 40 とは別の趣旨なのではないかと感じている。

このあたりが少しややこしく、区別が分かりにくい部分である。

**【委員】**

補足である。皆さんとの共通認識の確認になるが、問 40 の「地域活動」は広い意味を持つ言葉であり、非常に多様な活動が含まれるものである。

その中に、問 41 で扱っている「支え合い活動」、例えば見守り活動などが位置づけられると考えている。つまり、支え合い活動は地域活動の一部に含まれるという整理である。そのため、問 40 の地域活動と問 41 の支え合い活動を同じ扱いにしてしまうと、両者の区別が曖昧になってしまう。

むしろ、問 40 は広い意味での地域活動、問 41 はその中の一部である支え合い活動、と分けて示した方が、趣旨としては明確になるのではないかと考えている。確認というよりも、地域活動という大きな枠組みの中に支え合い活動が含まれるという整理である。

**【委員】**

「支え合い活動」という言葉が、どの程度理解されるのかが気になっている。自分自身はあまりこの言葉に慣れていないため、「これはどういうことなのか」「何を支えるという意味なのか」と疑問に感じている。そのため、この表現が回答者にとって分かりやすいのかどうか、少し気になっているところである。

**【委員】**

例えば、行政だけが行う支援は「支援活動」と呼ばれるかもしれないが、ここで言っているのは行政が主体となって支援するものではなく、地域の住民同士で支え合っていくという趣旨の活動である。

近年、共生社会や共同活動といった考え方が広がり、この 10 年ほどで「住民同士がお互いに支え合う」という方向に変化してきている。

しかし、聞こえない立場からすると、かつては孤立していた歴史があり、「支える」という概念が直感的に理解しにくいという点はよく分かる。これまでの地域活動の

流れを見ても、「支援してもらおう」という意味合いが強かったが、それには限界があり、行政だけでは対応しきれないため、地域同士の支え合いが必要になってきているという状況である。

その一方で、聞こえない立場としてピンとこない気持ちも理解できる。要はこの「支え合い活動」という言葉をアンケート回答者にとって分かりやすい表現に置き換えるべきか、それとも現行のまま「支え合い活動」という言葉を用いるべきか、そこを検討すべきではないかと提案していると認識している。

どのような言葉だとわかりやすいか。

#### 【委員】

今のところ私自身はまだ十分に理解しきれていない部分もあるが、皆さんのお考えとしてはどうであろうか。事務局としてはいかがか。皆さんが理解できる言葉であればよいと思うし、もし私だけがこの言葉に慣れていないだけであれば、「支え合い活動」という表現のままでも差し支えないと考えている。

#### 【会長】

多分、主語がないために分かりにくいのかもかもしれないと感じている。「住民同士の支え合い活動」と表現すれば、より分かりやすくなるのではないと思うが、いかがであろうか。

#### 【委員】

それなら理解できる。

#### 【会長】

表現について事務局と検討する。他に何か意見はないか。もしなければ、私からもいくつか確認したい点がある。

資料6障害者用の問16の選択肢「8. 校内での介助が不十分」について、難しい言葉を使わない方がよいというご指摘はあったが、一般的には「合理的配慮」という言葉が広く用いられている。この概念は介助だけを指すものではないと考えている。むしろ「合理的配慮」という表現を用いた方が、言葉としては難しくなるものの、内容としてはより適切で望ましいのではないかと考えている。

#### 【会長】

それから資料6障害者用の問31-1、「どのような場面で AI を活用することがありますか」という設問についてである。

「相談」という項目がどの選択肢に含まれているのか。AI を相談相手として活用する人もいそうだが、他の項目も相談行為にあたりそうとも考えている。私自身もまだ整理しきれていない部分があるため、事務局と一度検討を進めたいので、そのよ

うな形でよろしいだろうか。

**【会長】**

さらに問31-2「AIを使ってよかったと感じたことはありますか」の中にある、「2. 会話をする必要がなくなり、楽になった」という選択肢についてである。

これは「会話をする手間が省けた」というニュアンスなのか。人と会話をしなくなったというのはネガティブな面なのではないかと感じている。

**【事務局】**

人付き合いを避けたいという思いが能動的に働き、それを良い面として捉える方もいる一方で、その関わりが減ることによって、以前会長がおっしゃっていたような孤立化につながるというマイナス面にも転じうろと考えている。この点は、個人によって価値観が大きく異なる部分であり、どちらとも取れる側面を持っているとっている。

今回の問 31-2 の選択肢「2. 会話をする必要がなくなり、楽になった」と、問 32 の選択肢「1. 直接的なコミュニケーションが減ることによる人間関係の希薄化」はほぼ同質の内容であり、それぞれ異なる側面から尋ねている。つまり表裏一体の関係にある。

**【会長】**

了解した。

次に問 32「AI を使って不安を感じたことはありますか」という設問について、選択肢の中に「3. 将来的に自分の仕事が奪われるのではないか」というがある。障碍のある方が従事している仕事の中には比較的単純な作業も多く、そうした業務が AI に置き換えられる可能性を不安に感じる方もいるのではないかと考えている。また相談支援や手話通訳、要約筆記といった対人支援の仕事についても、すぐに AI に置き換わるのではないかと不安はあるか。

**【委員】**

聞こえない立場として申し上げたい。AI は非常に便利であり、24 時間いつでも使えるという点では大きな強みがあると感じている。しかし、人としての通訳が持つ役割は AI には備わっていない。例えば微妙な違いやニュアンス、日々のやり取りの中で生じる細かな判断を掴み取ることは、人間の通訳だからこそできることである。

AI は、これまで蓄積された通訳データを基に、「最も近いと思われる答え」を提示しているにすぎない。そのため、どの情報を根拠に選択しているのか分からないという怖さがある。特に、人生の重要な判断に関わる場面や、医療的な内容に関わる場面で誤った答えが出てしまえば、命に関わる可能性すらある。そういった意味で、AI には限界があると考えている。

一方で、人間の通訳は、そうした重要な部分をしっかり担ってくれる存在である。簡単な会話であればAIに任せられることもできるかもしれないが、場面によって使い分けることが必要だと思う。

**【会長】**

つまり AI が将来、手話通訳の役割を担うかもしれないという点についてはそれほど大きな不安を感じておられない、という理解でよろしいだろうか。

**【委員】**

私たち当事者の立場として申し上げるが、AI だけで通訳を完結させるという考え方には、活動として明確に反対である。AI のみの通訳は現実的に不可能であり、私たちはその点については絶対に反対する立場である。

**【会長】**

将来的なことは分からないが、現在、AI に関しては、手話を AI に読み取らせ、コンピューターに向かって手話をするとうアバターが日本語で音声化してくれる、といった技術が 5 つほど研究されていると聞いている。将来は、日本手話を使えばアメリカ手話に変換されるといったことも、技術的には可能になってくるかもしれない。ただ、将来の話はいったん置いておくとしても、それでも人間の仕事は残る、という理解でよいのだろうか。

一方で、要約筆記については、すでに音声変換ソフトなどがかなり進んできており、AI の影響は大きいのではないかと感じている。この点についてもアンケートで聞いたほうが良いか。

**【委員】**

問 32 についてであるが、少し抜けている視点があるように思っている。障害者サービスの中では、現在は人間が通訳や要約筆記などを担っているため、「AI によってそれらの仕事がなくなるのではないかと心配か」というような設問を入れるかという質問と理解した。

その観点を設問に入れたい気持ちはあるが、質問項目を増やすと事務局としても負担が大きくなり、調整が難しくなるだろうと感じている。一度検討していただくとありがたいと思っている。

**【会長】**

個人的には、AI が進んでいくことで、ソーシャルワーカーのような相談支援の業務も AI が担うようになり、専門性のある仕事まで AI に奪われてしまうのではないかと心配があった。

しかしそこまで踏み込んで考えると議論が広がりすぎるため、今回はその点につ

いては深く考えないことにしたいと思う。

**【会長】**

最後に、資料6障害者用の問 43「居場所」に関する設問について申し上げたい。  
この問 43 は、居場所が必要性の有無と、いつ必要になるのかという時間軸の問いが混在しているように思われる。以前にも申し上げたが、この二つの観点の一つの設問に入り込んでいるため、分けた方が良いと考えている。  
もし、あえて分けずに現行のまま一つの設問で扱うのであれば、選択肢の整理が必要ではないかと思う。

例えば、「1. すぐに必要だ」、「3. 今は必要ではないが、将来的には必要だ」にした方が良いのではないかと思う。2番については少し難しいが、いずれにしても必要性の有無と必要となる時期が混ざってしまっている点は改善の余地があると感じている。

**【社協】**

今ご指摘いただいたとおり、問43では時間軸も一応入れてはいるが、内容として本当に聞きたいのは、どちらかといえば「居場所が必要かどうか」という点であると考えている。

そのため、時間軸の部分がややこしいのであれば、思い切って削除してしまうという選択肢もあるのではないかと考えている。この点について、講評をいただければありがたい。

**【会長】**

場合によっては、選択肢3については削除してもよい、ということか。

**【事務局】**

社協さんから説明があった通り、時間軸よりも居場所が果たす機能や役割の方が重要であるという点については理解している。

そのため、問 43 の選択肢については、選択肢1、2、4、5つまり「目標を実現するための場としての居場所」、「単に安心して過ごせる場としての居場所」、「その他」、「特に必要はない」といった観点で整理した4択にすることで、設問としてもすっきりし、回答者にも分かりやすくなると思われるが、いかがだろうか。

**【会長】**

それで問題ない。

**【委員】**

資料 5 手帳非所持者用の問 13 についてである。選択肢「3. どちらともいえな

い」という表現が、選択肢「6. わからない」との違いが分かりにくいと感じている。特に「3. どちらともいえない」の意味が分かりにくいと感じた。

**【委員】**

補足として確認したいのだが、「1. かなり改善している」を+2、「2. 少しずつ改善されている」を+1、「3. どちらともいえない」を±0、「あまり改善されていない」を-1、「改善されていない」を-2、というように、改善度を数値化した方が分かりやすいのでは、という意味か。

**【委員】**

実際、今の説明を聞いてみると、「3. どちらともいえない」は「プラスでもマイナスでもない」意味なのかとも思うが、やはり言葉としては曖昧で理解しづらい。

**【会長】**

「どちらとも言えない」と「わからない」という二つの選択肢が並んでいることで、回答者が混乱するのではないかというご意見であると理解している。

一般的に、今回のような5件法では、1~5のうち真ん中の選択肢が「どちらでもない(±0)」という位置づけになる。つまり、改善している部分もあるし、変わっていない部分もある。その両方があるため、プラスともマイナスとも言えないという人が選ぶのが「どちらとも言えない」である。

一方で、「わからない」はまったく別の意味であり、「そもそも考えたことがない」、「障害者の状況を知らない」といった理由で評価そのもののできない人のための選択肢である。

この調査票では一般の方にも回答していただくため、障害者の状況をよく知らない方も一定数含まれると考えられる。そのため、「わからない」という選択肢を用意しておかないと、回答者が答えようがなくなってしまう可能性が高い。

**【委員】**

理解した。

**【委員】**

資料6 障害者用の問47について、現在の選択肢を見ると、入院に関する困難が含まれていない点が気になっている。

実際身体障害があるために生活動作が難しい、知的障害があるために付き添いが必要になるなどといった理由で、入院そのものが困難な方が相当数いるのが現状である。

しかし選択肢は通院に関する困りごとが中心のため、入院に関する困難は質問の趣旨から外れてしまうのだろうか。

**【会長】**

入院に関する困難も選択肢として入れてほしいという意見について、入院が困難である理由は様々だと思うが、入院を断られるという意味か。

**【委員】**

確かに「入院を断られる」というケースもあるが、それだけではなく、障碍特性ゆえに自分自身が入院を避けざるを得ない状況も多く存在している。例えば、身体障碍の場合、ナースコールを押せないために入院を諦めざるを得ないことがある。看護師が常時付き添うことは難しく、ヘルパーのような支援体制も確保できないため、私自身も入院を拒まざるを得なかった経験がある。また、知的障碍のある方の場合、大きな声を出すなどの特性を理由に個室に移される、あるいは受け入れを断られるといったケースもあると聞いている。

こうした事情から、入院そのものを考えられない、なるべく入院は避けたいという状況に追い込まれてしまう方が多い。したがって入院に関する困難も選択肢に入れた方が良いのではないかと考えている。

**【会長】**

現行の選択肢の中に、入院にも該当しそうな項目がいくつかあると感じている。

そこで通院の困難には直結しうが、入院の困難には直結しないであろう選択肢を一度精査していただき、別途選択肢を提案していただくことは可能だろうか。こちらとしても、事務局と一緒に検討を進めさせていただきたいと考えている。

**【委員】**

検討してみる。

**【会長】**

予定していた時間を少し超えてしまっているので、そろそろ閉会にしたいと思う。本日の議論を通して、もし言い忘れていたり、全体に関して補足したい点があれば、このタイミングでお願いしたい。

冒頭でも申し上げたとおり、今後のスケジュールを考えると、これ以上ご意見を頂戴するのは難しい状況である。したがって、これまでいただいたご意見を踏まえたくえで、最終的な調整については、事務局と私の方にご一任いただければと思っている。

その上で、最終的に「このような質問項目・アンケートになりました」という形で、改めて皆さまにお示しし、ご確認いただく機会を設けたいと考えている。今回はその進め方でご承認いただければ幸いである。

それでは、続いて事務局より連絡事項をお願いしたい。

(3)閉会

【事務局】

- ・次回小委員会の予定について
- ・社会福祉審議会の予定について